

## 平成 26 年度 第 45 回千葉県中学校バスケットボール新人大会 総評

千葉県小中学校体育連盟他主催、千葉日報社他後援の第 45 回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は 11 月 2 日（日）、8 日（土）、9 日（日）の 3 日間、館山運動公園体育館をメイン会場とした 3 会場で行われた。

男子のベスト 4 には、シードから順調に勝ち上がった八千代松陰中（八千代）、辰巳台中（市原）、葛飾中（船橋）に加え、ノーシードながら高さとしつこさを秘めた土気南中（千葉）が出そろい、準決勝は八千代松陰中対土気南中と、葛飾中対辰巳台中の対戦カードとなった。スピードあふれる速攻やインサイドとアウトサイドからバランス良く得点をとれる八千代松陰中と、力強いインサイドとシュートの上手さが光る辰巳台中が決勝に進んだ。

決勝戦は両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。八千代松陰中は全員が積極的なドライブからシュートを決め、対する辰巳台中はインサイドにボールを集め、相手を崩しながらジャンプシュートで得点し、両者一步も譲らない展開を見せ、前半を 21 - 21 の同点で折り返す。3Q に入り辰巳台中のシュートが落ち始めると、八千代松陰中は⑧田崎のバスケットカウントや⑨梶本のゴール下、連続 3P で引き離し、一気に 15 点をリードする。一方辰巳台中も 4Q に入り、④葉丸のジャンプシュートや⑥兼重のリバウンドシュートや 1 対 1 で得点を重ね、残り 2 分時に⑦衛藤の 3P でついに 2 点差まで追いついた。その後ファールゲームに持ち込むが、八千代松陰中がフリースローを確実に決めて逃げ切り、56 - 51 で八千代松陰中が 3 年ぶり 3 回目の新人戦優勝に輝いた。

一方女子のベスト 4 は、シードから順調に勝ち上がった昭和学院中（市川・浦安）、海神中（船橋）、習志野一中（習志野）に、ノーシードからシード校を破って勝ち上がった四街道北中（印旛）を加えた顔ぶれ。準決勝は昭和学院中対四街道北中と、習志野一中対海神中の対戦カードとなった。決勝には、県新人戦 8 連覇を狙う昭和学院中と、巧みなインサイドプレイと激しく攻撃的なディフェンスで勝利してきた海神中が進出した。

決勝戦は、昭和学院中はオールコートのマンツーマン。対する海神中はハーフコートのマンツーマンでお互いに厳しくプレッシャーをかけあう展開となった。序盤、海神中は⑥高橋の連続得点、⑧目黒のバスケットカウントなどでリードを奪うも、昭和学院中⑥山田の 3P、⑤西江の速攻などで応戦。更に④池見のジャンプシュートなどで着実に得点を重ね、39 - 25 の昭和学院中 14 点リードで前半を折り返す。後半に入り一進一退の攻防が続くが、海神中の外角シュートが決まらず、昭和学院中がリバウンドからの速攻などで点差を引き離し、最終的に 74 - 43 で昭和学院中が勝利した。8 年連続 18 回目の優勝という快挙を成し遂げ、今大会の幕をおろした。敗れはしたものの、海神中の最後まであきらめずに走ったりリバウンドに跳びこむ姿、シュートを狙う姿勢が非常に印象的であった。両チームの健闘に拍手を送りたい。

今年度の新人大会では、昨年度から下級生ながら試合に出場していた選手の成長はもちろん、最後まであきらめずにボールを追いかけ、ディフェンスやリバウンドなど目立たないところでもひたむきに頑張るチームの活躍が見られる大会であった。中学生らしく一生懸命にプレーする姿は、見る人を魅了するものであった。春の選手権までの約 6 ヶ月の間に、選手達がどれだけ成長していくのかが、とても楽しみである。

最後になりましたが、TO 指導や会場準備など、開催地区である安房支部の役員の先生方、生徒の皆様、支部外からお手伝いいただいた先生方、バスケットボール関係者の皆様のご尽力により大会を無事終えることができました。ご協力に対し心から感謝いたします。

文責 県中体連バスケットボール専門部  
報道委員会 澤村 雅司（行田中）